

平成29年第10回花巻市教育委員会議（定例会）議事録

1. 開催日時

開会 平成29年9月26日（火） 午後3時15分

閉会 平成29年9月26日（火） 午後5時00分

2. 開催場所

宮野目振興センター 講義室

3. 出席委員（5名）

委員 照井 善耕（委員長）

委員 中村 弘樹

委員 役重 眞喜子

委員 伊藤 明子

委員 佐藤 勝（教育長）

4. 説明のため出席した職員

教育部長 布臺 一郎

教育企画課長 岩間 裕子

小中学校課長 沼田 弘二

こども課長 高橋 靖

文化財課長 酒井 宗孝

5. 書記

教育企画課 課長補佐 佐々木英智 係長 大竹誠治

上席主任 佐々木晶子（書記）

○照井善耕委員長 只今から、平成29年第10回花巻市教育委員会議定例会を開会いたします。会議の日時、平成29年9月26日、午後3時15分、会議の場所、宮野目振興センター、講義室。日程第1、会期の決定であります。本日一日とすることにご異議ありませんか。異議なしと認め、本日一日と決しました。

日程第2、報告事項に入ります。事務局から報告をお願いします。布臺教育部長。

○布臺一郎教育部長 平成29年第3回花巻市議会定例会教育関係事項、平成28年度決算について報告をいたします。資料No.1をご覧くださいと思います。平成29年第3回花巻市議会定例会でございますが、9月1日から9月21日までの会期で開催されたところですが、一般質問につきましては、登壇議員13名中5名の議員から16件の質問がございました。各質問に対する答弁内容は別添のとおりであります。

登壇番号3番の近村晴男議員から市民の健康づくりについて3つ質問をいただいております。1点目が、親子での食生活改善への取り組みについて、2点目が、中学生への医療費助成への教育委員会としての考え方、それから、3点目が、郷土芸能伝承者への人間ドックの受診勧奨や受診料の助成を行うことの考えはないかという質問でございました。

これは、近村議員が以前に長野県松本市を視察なされた際に、中学2年生を対象に学校検診時に血液検査を実施し、その結果に基づき親子の食育指導を実施している事をご覧になったので、花巻市でもそういう取り組みはどうかという質問でございました。このことについて、当市においては、平成18年に新市が施行されて以来、小学4年生と中学1年生について、法定外検査でありますが保護者の同意のもとで問診と血液検査を行っております。検査項目については、肥満度、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロールなどの脂質検査、ヘモグロビンA1c、肝機能の検査をやっておりまして、議員の質問にあった長野県松本市のようなものについては花巻市で既に取り組まれているという答弁をいたしました。

次に、2点目の中学生への医療費助成の教育委員会としての考え方でございますが、これに先立ちまして、市長に対して中学生への医療費助成の考え方についての質問がありました。教育委員会としては市長の答弁のように、今、検討がしっかりなされているものと理解していると答弁をしたところでございます。

続きまして、3点目の郷土芸能伝承者への人間ドックの受診勧奨や受診料の助成を行うことの考えでございますが、これにつきましても、郷土芸能伝承者に限らず、市民の健康の保持・増進の観点から、しっかりと受診して頂くのが大事であるという趣旨の答弁をしたところでございます。

近村議員の2件目、あんどんまつりについてであります。1点目、ユネスコの無形文化遺産登録へと結びつける活動の展開についてでございますが、本年度は特別に「宿場町大迫400年記念事業」が行われまして、非常にあんどんまつりに対する関心が集まっているという現状を捉えて、今後、ユネスコの無形文化遺産登録へ結びつける活動を展開してはどうかということでありましたが、これに先立ちまして、岩手県の指定を受けることが大事であると考えため、指定に向けて市の教育委員会として出来る事をやっていくという趣旨の答弁をしたところであります。なお、ユネスコ世界文化遺産については、基本的に国指定になってからでありますので、県指定、国指定という流れを踏みながら、まずは、県指定を目指すという答弁をいたしました。それに関連して、2点目の県の文化財指定に向けた取り組みについてでありますけれども、県指定については岩手県教育委員会の方針に基づくものでありますけれども、市の教育委員会として、今後も県の調査研究候補物件として強く推薦を行っていくと答弁をしたところであります。

登壇番号4番、若柳良明議員からの質問でございます。公立保育園の民間移管について3点にわたって質問を頂いております。1点目は、今年度、民営化した3園の検証について伺うものであります。民営化の検証については、保護者、移管先法人、市の三者による検討の会議を行っており、その実施状況をお答えしたところであります。

2点目の、公立保育園の職員体制でございます。民営化によって公立保育園の正職員率が高まるという説明を以前にもしておりますけれども、その実態を伺うものであります。

これについては、現状について報告をしているところでありまして、正職員率が高まっているという答弁となっております。

3点目の公立保育園から民間移管した保育園へ雇用された職員の状況についてでありますけれども、公立保育園で臨時補助員や非常勤職員として働いていた方が、民営化した保育園毎にそれぞれ何人雇用されたのかについてのお尋ねであります。これについては記載しているとおりでございます。

登壇番号6番、松田昇議員から奨学金制度について質問がございました。1点目、花巻市奨学基金制度の現状についてでございますが、これは、基金総額、毎年の貸出、返済金額についてのお尋ねでありましたので、それについて答弁をしたところであります。各種制度のご紹介も併せてさせていただきました。

2点目の奨学基金の今後の運営についてでございますが、今後の運営について、安定的に貸与することができるものかどうかという視点で、奨学金制度の方向性も含めて何う内容でありました。これについては、現時点で返済額が年間の貸与額を上回っている状況でありますので、今後も奨学金については安定的な運営が行えると認識しているという答弁をしたところであります。

登壇番号11番、藤井幸介議員ですが、学校給食費について質問がございました。1点目は、未納状況および未納対策について何うということ、現状の数字をどのように分析しているのか、それから未納対策をどのように行っているのかというお尋ねでありました。平成28年度単年度の花巻市内小学校に対する給食費の合計が、2億4,091万7,425円に対し、納入済み額は2億4,082万704円となっております。また、中学校に対しましては、1億6,154万4,016円に対し、納入済み額は1億6,093万9,938円である状況について報告をしたところであります。

再質問といたしまして、学校給食を無償化する考えはないかお尋ねがありました。これについては、6月議会でも答弁しておりますけれども、学校整備や教育環境整備に予算を使っている現状からいたしますと無償化はまだ考えていないという答弁をしたところではあります。ただ、議員から、もし花巻市において学校給食費を無償化した場合、浮いたお金をどのように使うか調査をしたらどうかというご提案がありましたけれども、その考えは今は持っていないと答弁をしたところであります。

次に、藤井議員、2件目の受動喫煙防止対策でございますけれども、たばこが健康に及ぼす害や受動喫煙の問題について、子ども達にどのように教育しているのか何うという質問でありまして、これは学校の指導要領に基づく、現在の小中学校での指導の内容を答弁したところであります。

登壇番号13番、照井明子議員から保育行政について4つの質問がございました。1点目は、空き待ち児童と待機児童の現状について、2点目は、待機児童解消の取り組みについて、3点目は、保育士確保策として、周知の方法、花巻市保育士等復職支援の登録手続きの見直しについて、4点目は、保育士等の処遇改善に伴う研修会が市内でも開催されるよう県に要望する考えはないかというお尋ねでありました。

1点目の空き待ち児童と待機児童の現状についての数値は、8月時点でありまして、8月時点でも、空き待ち児童が62名、待機児童が59名ということで毎月増加しております。

2点目の市としての取り組み・考え方についてでございますが、市の取り組みとして2つの柱がございまして、1つ目は、法人立保育所新設の機運が高まっておりますので、それを応援することで空き待ち児童や待機児童が入園できるよう施設整備をしていることがあります。2つ目は、潜在保育士の確保対策事業に力を入れているということで答弁をしたところでございます。

3点目の保育士確保の対策について周知方法はどうであるか、それから、手続きの見直しを考えることはないかということでもありますけれども、周知方法として、市の広報、ホームページ、ツイッター、フェイスブックによるお知らせのほか、市内公立・法人立各保育園にお伺いをして、周知活動を行っているところであります。それから、県内の保育士養成校5校への訪問活動を6月及び8月に実施しておりますし、6月30日には盛岡大学短期大学部において、プレゼンテーションを行ってまいりました。それから、10月には学生の方を花巻市にお招きして保育現場の視察を行うことを計画していると答弁したところでございます。保育士等復職支援の登録手続きの見直しについて、市に登録するのではなくて保育園に持っていく事例があるので、手続き方法を緩和できないかということでありましたけれども、これについてはやはり申請書に書かれている内容が個人情報に関わるものでありますので、市で申請を受理する形にしつつ、申請の窓口を以前より広く取ると答弁したところでございます。

4点目の保育士等の処遇改善に伴う研修会を市内でも開催するよう県に要望する考えはないかということでもありますけれども、振興局毎に会場を設けることになると、やはり移動時間や交通費の負担があるということで、これについては県に要望していくと答弁したところであります。以上簡単ではございますけれども一般質問の内容でございます。

続きまして、議案審議についてご報告いたします。議案審議につきましては、下記のとおり議案を提出し、原案のとおり可決されました。今回の定例会では教育委員会に関する議案は、一般会計補正予算の内容だけでありました。

平成29年度一般会計補正予算（第2号）であります。歳入の国庫補助金661万3,000円は放課後児童育成事業でありまして、歳出の放課後児童支援事業費1,984万円に充当されるものです。これは放課後児童支援員等処遇改善事業補助金で、いわゆる、学童クラブの支援員さんの待遇改善に充当されるものでございます。同様の補助金が、県補助金で661万3,000円、これも同じ事業に充当されます。国3分の1、県3分の1でございます。国庫補助金3,985万円は保育所等整備交付金ですが、これは歳出の保育施設環境整備事業4,483万1,000円の小規模保育事業施設整備補助金に充当されるものです。これは花巻市の下似内において小規模保育園を開設しようとする民間の方がいらっしゃるしまして、その方に対する補助金であります。国からの補助金については事業費の3分の2ですので、3,985万円となります。

歳出に移ります。一般行政経費（保育園）の386万7,000円につきましては、今年の6月に小山田保育園の敷地内をクマが横断することがありましたので、園児の安全確保のために保育園の周り、全部をフェンスで囲って、クマの侵入を防止することを考えておりまして、それに要する費用であります。一般行政経費（幼稚園）の52万3,000円は花巻幼稚園の灯油の配管に不具合がありまして、冬を迎える前に改修をするものであ

ります。放課後児童支援事業費については、先ほどご説明申し上げたとおりでございます。保育施設環境整備事業費についても、先ほどご説明したとおりであります。一般行政経費（小学校教育運営）116万7,000円については、日本語指導臨時講師の報酬の補正でありまして、これは、中国、フィリピンからの帰国子女の日本語指導の経費ですけれども予算に不足をきたしましたので、今回、補正をする内容でございます。最後に、展示活動事業費108万9,000円については、庁用備品購入費で、博物館備品の購入費でありまして、台焼に関する資料を購入するものであります。

続きまして、平成28年度一般会計歳入歳出決算につきましては別添資料のとおりでありまして、教育費に関する歳出の決算は68億8,152万7,248円という決算額でございました。決算審査は9月13日、14日、15日の3日間行われましたが、民生費3款については、例年に比べますとスムーズな進行でありまして2日目で教育委員会関係は全て終了したところであります。以上、簡単ではありますが、議案審議の内容についてご報告させていただきます。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。只今報告いただいた件について、質疑等ございましたらお願いいたします。役重委員。

○役重眞喜子委員 今回、有線で聞けなかった部分なので、参考までにお聞きしたいのですが、近村晴男議員の健康づくりの質問ですけれども、郷土芸能伝承者への受診料の助成は、どこかで例があるということでの質問だったのですか。

○布臺一郎教育部長 具体的に健康を害して郷土芸能が出来なくなったという例はないと伺っていますけれども、今後、郷土芸能伝承者の突然の病による郷土芸能存亡の危機を未然に防ぐためという前提での質問でありました。

○役重眞喜子委員 ごめんなさい。事例というのは、こういう助成制度を実施している市町村があるのかということでした。

○布臺一郎教育部長 全て調べているわけではないのですが、国の人間国宝においてもそういうものはないと理解しておりますので、健康については皆さんそれぞれの責任で気を付けていただきたいということでもあります。

○照井善耕委員長 他にございませんか。なければ、只今の報告についての質疑は終結いたします。それでは次の報告事項についてお願いいたします。岩間教育企画課長。

○岩間裕子教育企画課長 未来創造知恵出し会議の総括ということでご報告をさせていただきたいと思っております。資料No.2をご覧ください。昨年度から開催しておりましたワークショップですけれども、この度、8月下旬に4回目のワークショップを開催いたしまして予定どおり終了いたしました。

全体の内容でございますけれども、平成28年度第1回会議の内容につきましては、ありがたい学校の姿をイメージするというので、「誇りに思うこと、残念に思うこと」「ありがたい学校の姿を保護者として、地域として考えよう」という2つのテーマで協議をいたしました。第2回会議は、第1回で出した、ありがたい学校の姿になるために何を取り組むべきかについて協議をしたところです。1つ目は、ありがたい学校になるために取り組むべきこととして、「安全・安心」「連携・交流」「子どもの居場所」「職業観」という4つのテーマに基づいて、地域でできることと保護者ができることのそれぞれを話し合いました。そして、2つ目は、楽しいと思える学級規模について意見をもらったところです。第3回会議は、ありがたい学校の姿につながる、保育園・幼稚園の姿を考えるということで話し合いを行いました。1つ目は、保育園等でこんな取り組みがあったら良いと思う取り組みを考えました。2つ目は、小学校入学までにどういうことを子どもに身につけさせたいかを話し合い、身につけさせるために保護者として地域としてできることを深堀りしました。そして、第4回会議は、地域に視点を当てて、理想的な関係づくりを考えるということで、1つ目が、地域で子どもを育てる意識が高まらない原因と解決策について考えました。そのあと、2つ目で、子どもと保護者と地域が一緒に取り組めることについて考えたところです。今後はこれをベースに新しい教育環境に関する基本的な考え方をまとめていきたいと考えております。

全体の出席状況でございます。第1回会議の出席は121名、第2回は90名、第3回と第4回は67名と若干減ってございますけれども、全体では延べ345名でございました。第1回の出席率が81.8%であったのに対して、第2回で60.8%、第3回と第4回は45.3%、全体では58.3%の出席率でございました。PTAは54.6%、保育園が57.1%、コミュニティ会議は66.4%ということで、全体としてはコミュニティの方の参加率が高かった状況になっております。一方、参加した方々の満足度では、十分に話せた方は42.0%、まあまあ話せた方が52.8%、あまり話せなかった方が1.4%、ほとんど話せなかった方はいらっしゃいませんでした。特に第3回の保育園・幼稚園をテーマにしたものでは十分話せた方々の割合が56.7%と最も高い会議になりました。一方であまり話せなかった方が3.0%ということで、人数的には少ないのですが、割合が高くなってしまいました。テーマへの思い入れということでもちょっと違ったのかなという感じが出ております。

4ページをご覧いただきたいと思っております。出された意見を簡単にまとめたものです。初めに、第1回会議のありがたい学校の姿についてでございますが、出た意見としては①安全・安心であること②保護者・地域と連携交流があること③職業観が育成されること④放課後や休日に子どもの居場所があること⑤子ども達が楽しいと感じる学校であることでございます。この中でも様々な意見がありましたが、大きい意見といたしましては、複式学級は避けたいという意見や、中学校のクラブ活動については選択肢がたくさんある方が良いということで小規模だと部活の選択肢が少ないことがネックだという意見がございました。学級規模については1クラスの人数については20人から35人が理想だという意見が最も多くありましたし、クラス替えがあった方が良いというのはほとんどのグループで賛同する意見でした。学校への意見としては、情報がなかなか家庭や地域に出てこないと感じ

ているという意見が多かったという印象です。それから、小中高まで含めた一貫校の話題も出ておりました。以上が、小中学校に関する意見の主なところでございます。

保育園・幼稚園・こども園等に望む取り組みとして、大きく4つの意見がございました。1つ目は、色んな体験をさせてほしいということでした。家庭では体験させることが難しいことについて園でやってもらえると嬉しいということでした。2つ目は、他の保育園・幼稚園、保護者同士が交流できる機会を作ってくると良いということでした。特に、他の園との交流を望む声がありました。3つ目は、外遊びの楽しさを伝えてほしい、外で遊ぶことで体力をつけさせてほしいというご意見がございました。4つ目は交通安全などの基本的な行動部分については園でも教えてほしいというご意見でした。また、子ども達に入学前に身に付けさせたいことについては、我慢する力、基本的な生活習慣、集団行動。あとは、ゲームとかのルールを守るようにさせたい。感謝の気持ちを言葉に表すことができるようにさせたい。物があふれているので物を大事にする心を身につけさせたいということが話し合いで出てきた意見でございます。

これに対して、地域でできることとして、今も行っているし、これからも継続してほしい取り組みが5つございまして、1つ目は、登下校の見守り。2つ目は、子どもの居場所作りで、賛同が多かったのは長期休業中に寺子屋のようなものを開設している地域の事例がありましたので、他の地域でもできないかというご意見がございました。3つ目は、交通安全教室の開催。4つ目は、伝統芸能の伝承活動です。世代間交流を中心として、これまでと同じように開催してほしいというものでございました。一方、改善する部分として、行事の企画に子育て世代が参画することや、行事の内容についても時代にあった見直しも必要だということで、子どもが参加したくなるような行事を企画したり、地域住民がお互いを知ることができるように工夫していったらどうだろうかということでした。具体的にはハロウィンで各家庭を回るですとか、地域内で他の家に泊まる（ホームステイ）とか、参加した都度、記念品的なものを配布できないだろうかということがございました。周知方法についても、回覧板で回っても、例えば、3世代で同居していれば、おじいちゃん、おばあちゃんだけが見て次の家に持って行って若い夫婦は見ないこともあるので、ITとかメールを使って配信したりできないだろうかという意見もありましたし、前年度の様子ですとか、楽しそうにしている写真を入れる工夫も必要ではないのかという意見も出たところでした。

保護者については、自分達でできること、しなければならないこととして、まずは、挨拶とか言葉づかいなど、子どもの手本となる行動を心掛けるという意見が多く出ておりました。ただ、それに固執しすぎると親も息苦しくなるので、一緒に成長する気持ちで取り組むことも大事だという意見も出ておりました。それから、大らかな気持ちで子どもに接する、親子の時間を増やすことを心掛ける、地域や学校行事に参加して楽しんでいる姿を子どもに見せることが大事という意見が多数ございました。改善点としては、スポ少や部活の関係で完全休養日が必要ということです。スポ少や部活に親がついて回る状況があるので、親も忙しくて地域に出れないという意見もございました。それから、これは複数の方から出ていたのですが、以前に比べると地域の中で子どもを育てるという意識が親世代で希薄化しており、これを改善していく必要もあるのではないかとということでもございませ

た。これが出された意見の大まかな内容でございます。詳しい内容は参考資料にワークショップの共有意見とアンケート自由記載の意見を添付しておりますので、ご覧いただければと思います。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。詳しい資料がついていますので、後で目を通していただくことにして、今の段階で何か質疑等ございましたらお願いします。伊藤委員。

○伊藤明子委員 未来創造知恵出し会議の出席者が、1回目、2回目とどんどん減っているようですけれども、この原因は突き詰めてお考えなのでしょうか。

○岩間裕子教育企画課長 平日のお休みを複数回取るというのは厳しいという意見はありました。そこで、休日にも開催してみたのですが、休日にも仕事があったり、PTAの方々はスポ少や部活についていくことがあると土日でも無理だということで、複数回の開催は負担が大きいというのが実際のところですね。できれば1回で中身を濃くという形がよろしいのかなと思いましたが、アンケート結果では、なかなか良い結果だったのですが、内心では負担感が拭えない部分もあるのだなと思っております。

○伊藤明子委員 いつも同じ方ではなくてもよろしいわけですね。

○岩間裕子教育企画課長 今回は、議論を1つずつ深めていくため、可能な限り同じ方をお願いしたいと、当初から2年度に渡ってのご依頼をしたところですので、同じ方が何回も仕事を休まなければいけない状況になってしまったのが負担だったと思っています。

○伊藤明子委員 これを戻してまた煮詰めてやらないと意見を聞いただけではしょうがないですね。わかりました。ありがとうございます。

○照井善耕委員長 他にございませんか。役重委員。

○役重眞喜子委員 今後の展開ということで、意見を参考にして今年度中に教育環境に関する基本的な考え方を取りまとめるということですが、このワークショップ自体は非常にきつい日程の中で頑張ってもらって良かったと思うんですけど、出された意見が、複式学級は避けたいとか当然出てくるのは予見されていたと思うんですね。これを具体的に教育環境に関する基本的な考え方にするためには、多分、学校規模とか学校整備計画的なところまで持っていきたいと思うんですけども、それに結び付けるには、まだ相当の1ステップ、2ステップがあるような気がするんですね。今年度中にそれが本当に可能かなというのがひとつありますし、出された意見はそれぞれ尤もなことなんですけれども、例えばスポ少のことにしても、安全・安心、地域との連携、家庭の教育力、これら全て教育振興基本計画の中で既に重要事項として入ってきているものですので、教育環境に関す

る基本的な考え方に昇華させていくには、どういうプロセスでやっていくのかというところですね。ワークショップは基本的に参加者に当事者意識を持たせる。他人事じゃなくて自分事にしていくためのプロセスであって、あくまで合意形成手段ではないので、これをもって親達の合意形成にはできないと思うので、これからの持っていく方についてお聞きしたいのですが。

○岩間裕子教育企画課長 今、盛岡大学短期大学部の嶋野教授をトップに有識者の方々に集まっていたいて会議をやっております。教育環境に関わる学級規模ですとか、そういう意見はそちらの会議でも議論していただいております。例えば、小中一貫校の考え方についても、そちらで揉んでいただいている状況です。今の学区再編等に関する基本的な指針は平成19年度に教育委員会で策定しているものであって、それが生きている状況なので基本的にはそれをより具体的な形で改定するというのが大きな大方針になると考えております。その中に、今まで含まれていなかった、小中一貫校ですとか、学級規模ですとか、例えば、どういう規模になった時に統合について検討していくという部分をまとめることになるのではないかと考えております。

先ほどおっしゃったように保護者の意識づけというのはそのとおりです。ただ、今回も部活の関係が出てきている状況なので、例えば、小規模校における部活の取り組みについてとか、そういう部分も盛り込まないといけないのではないかなと思っています。そこまで踏み込んだ形で教育環境をまとめるのが第一なのではないかと思っています。ゼロからではなく今あるものを改定するというのが基本的な考え方になると思っています。

今の指針では、基本的に複式学級や小規模化を課題と捉えつつも、1学年1学級校は存続で良いことになっているんです。それがどの規模まで存続させるか、今度は施設の絡みもありますので、ある一定の用途を付けないと厳しい状況になっていると思っています。そこを、理想的な学級規模としての数値からどういうラインで統合を検討していかなければならないか示す必要があるんじゃないかと思います。

○役重眞喜子委員 今ある方針にも、一応、学級規模と複式は避けるということは書いてあるけれども、結局、方針だからオーソライズされたにも関わらず嫌だよと言ったらそれ以上進まないという状況ですよね。具体化して踏み込んで、より拘束力を持つ形で策定しようとする、またもや、方針は作ったけど総論賛成、各論反対で動かないということになる。そういう方針であれば、もうそれはやってもしょうがないと思うんですよ。そこまで考えるのであれば、相当プロセスをきちんとしないと。そこで何が引っかかっていたかという地域ですよね。この方針が出た以上、こういうふうには学校規模が縮んでいったら嫌だとは言えないよという、法的には何も無いにしても、地域に意識を醸成するような、持っていく方のやりようだと思うので、書きぶりではなく持っていく方だと思うので、そこを私たちも丁寧に議論しながらやっていければと思いますのでお願いします。

○岩間裕子教育企画課長 実は、今回のワークショップに、ある小学校のPTAの方が1回も参加しないでいまして、その学校のPTAで企画していただければ、個別に

他の地域に出した情報を持って、勉強会みたいな形で皆で意見交換をしませんかということとは考えております。一緒に勉強会をしていきたいということで、そういう部分を丁寧にやっていくことでの計画はたてておりました。

○佐藤勝教育長 勉強会という形で、課題を共通認識とする。それから、県の再編も参考になるんだと思います。こういう場面であればこうとか予見させる手立てが必要だと思います。既にデータは見えているけど実感がないんだと思います。何でうちばかりとなるので、地域でやり方を変えるのは良くないと思います。ただ、優先度はあると思います。優先していかなければならないところから声をかけていくことが必要だと思います。最近では自発的な動きが見えていますので。だいぶ意識は変わってきたと思います。

○伊藤明子委員 やはり地域で考え方が違いますもんね。それをならして同じレベルにしてからいきましょうとなるまでが大変ですもんね。だから話し合いとか揉むとか大事ですよ。

○中村弘樹委員 このワークショップで、複式を避けるとかについて、急いでほしいという話はなかったのでしょうか。

○岩間裕子教育企画課長 単語としては出てきませんでした。親御さん達は複式学級を望んでいないということでした。

○中村弘樹委員 学校再編を早く進めてほしいというのは。

○岩間裕子教育企画課長 具体的にはないのですが、ただ、こんなに早く子ども達の数が増えるのは予想外だったというか、減っているとは思っていたがこんなだとは思っていませんでしたのでショックだったという意見はありました。

○伊藤明子委員 お祭りなんかを見ているともそうですもんね。あちこちから借りてこななければならないとか言っていますからね。

○佐藤勝教育長 学力とか、生徒指導とか、いじめとかがもっと入ってくるのかと思ったのですが、ベーシックな部分がだいぶ出てきて、それぞれの地域や親御さんの関心はこっちだなというのがわかりましたね。ただ、今回やってみて、学校教育だけではだめだと。生涯学習や社会教育も取り込んだ形で、地域づくりも含めてチームでやらないとなかなかお応えできないだろうなと思いました。例えば、部活の問題と言っているけれども、実際はスポ少の問題だったりするんですね。

○照井善耕委員長 確認ですけれども、今回出席した方々は、どういうふうにして、その地域を代表して出てきたんですか。

○岩間裕子教育企画課長 コミュニティ会議などに何名お願いしたいということで依頼しまして、それぞれの団体で参加者を選んでいただきました。

○照井善耕委員長 そうすると、今回出て色々話をしたり、他の地域から出てきた人達の話聞いた方々は、コミュニティ会議に戻って、何か情報を共有するとか、この会議で得られた視点をもとに話し合いをする取り組みというのは出ているのですか。

○岩間裕子教育企画課長 会長とか役職のある方々が結構入っておいりましたし、あと、アンケートでも、意見を地元の地域でも反映させたいという結果もありました。あと、PTAの方々だと個人ではなく学校に資料を出してほしいという意見もありましたので、PTAによると思うのですが共有されているところもあるのかなと思っています。ただ、全く出てこなかったところもあって、学校に全く情報がいついていない状況になってしまっているんで、そこをフォローしていくことだと思います。

○照井善耕委員長 情報も集めて、紹介する場面があっても良いかもしれませんね。

○岩間裕子教育企画課長 今回、一部の保育園から出た要望も、メンバーに入っていた保護者会の方だったので、そこで人数が減っていく部分での危機感みたいなものも後押しした部分ももしかしたらあるのかなと思いました。

○照井善耕委員長 教育を広く捉えた時に何が大事にされていかなければいけないとか、多分、視点が増えたんじゃないかと思いますよね。これから色々な機会に話題にしていって、今回で終わりにならないように。

○岩間裕子教育企画課長 はい。継続しないんですかというご意見やこういう会議を継続してもらえたらいいなという話もちよっとあったので、そこは個別にPTA単位とか、ご希望があれば行くという形になるかと思えますけれども。

○照井善耕委員長 1回目の時に、意見はこの先どう生かされるのですかとかあったと思うのですが、必ずしもこう言ったのをこう生かしてやりましたといくものではなくて、例えば、今まで統合について良いとか悪いしか話がなかったのが、子どもの状況を広く捉えてものを感じるようになってきているとか、そういう意味での生かし方がされているという捉え方もあるよね。

○岩間裕子教育企画課長 花巻の中央部の方々にとっては、複式学級というイメージがわかなくて、どういうものですかというあたりからやったりもしたので、そういう意味で複式学級はこういうものなのかとか、他の学校にはこういうクラブ活動まであるんだとか、そういう情報共有の場にもなったと思っています。

○佐藤勝教育長 P T A同士で交流することがあまりないんです。ですから、複式学級、部活動、スポ小、地域活動、みんな違うんですよね。初めて聞いたこともあるみたいです。

○伊藤明子委員 学校を見に行けるようだといいですよ。そうすると親御さんも認識を新たにすることもできるかもしれないから。複式ってこうなんだとか、何か自分にできることはないかと思えるような、うまくいけばいいですよ。

○照井善耕委員長 部活ですが、当然、減っていったら縮小しなければと思う。では何を残すかという話になると思うけど、野球は伝統があるから残すべとか、そういうレベルの話をしたら多分収集がつかないと思う。やはり、部活を通じて何を育てるのか、自分の好きなものだけじゃなくて、限られた条件の中でここを發揮させたいとか。何かそうやっていけば、例えば、球技を通してこれができるから球技は1つ残そうとか、何かそういう策も出てきそうな気もする。この学校では部活ができないから隣の学校に移らなきゃいけないとかそんな極端なことってあるかな。学校の部活ってそういうことじゃないと思うんだけど。

○佐藤勝教育長 多忙化に関しても中教審で提言があったのですが、本来の部活から膨張しすぎて学校でも支えきれないレベルまで来ていると。それだけスポーツに関心が高いのは良いんだけど、やはり原点回帰ということと、スポ少との決別をするべきというようなことだと思います。ただ、部活とかスポ少が悪いということではなくて、本来何をやらなきゃいけないかということですよ。ただ、選択肢がないことも不幸なことなので、合同チームで出るのであれば学校同士で接続する形でやれる機会はないのかなとか。他の学校と混じって練習をする。そういうこともひとつの選択肢だろうなと。ただ、何でもかんでもというわけにはいかないです。

○照井善耕委員長 合同でやるって移動のロスとかいっぱいあるんじゃないかな。何か違う方向に行ってると思うんだよね。地域の大人がまとまって子ども達をどう育てていくか、この中のひとつに中学校の部活もあると思う。

○佐藤勝教育長 国内でも学校選択制で部活を要件に入れているところもありますし。それぞれのルールなんだと思います。だめだよと言いつつ住所を移されると何ともならない。

○照井善耕委員長 色んな機会に話題にしながらということで、今の報告についてはよろしいでしょうか。それでは、次の報告をお願いいたします。沼田小中学校課長。

○沼田弘二小中学校課長 全国学力・学習定着度状況調査の結果が出ましたので報告をいたします。資料No.3をご覧くださいと思います。平成29年度の全国学力学習状況調査は4月18日に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。その結果が8月

28日に公表されましたので概要についてお話ししたいと思います。

平成29年度教科調査の結果について、全国と県との比較でお話しいたします。小学校は国語A、国語B、算数A、算数B。中学校は国語A、国語B、数学A、数学Bが行われましたが、小学校の正答率は、国語Aが77%、国語Bが59%、数学Aが80%、数学Bが45%。中学校も同様に国語Aが80%、国語Bが73%、数学Aが62%、数学Bが47%となっております。中段が岩手県の平均正答率。下段が全国の平均正答率ですが、正答率は小数点以下を四捨五入して整数値で示すことが国の方針となりましたので、市もそれに合わせています。

大まかな傾向をお話しいたしますが、小学校では全国との比較で概ね好ましい傾向と捉えております。全国との比較では国語A、国語B、算数Aが1%から2%全国を上回っており、算数Bが1%下回りました。県平均と比較しますと国語A、算数Bは県と同等、国語B、算数Aで1%下回った結果となりました。全国との比較では算数B以外の3教科で概ね好ましいですが、県との比較では国語B、算数Aで改善が望まれる結果になりました。中学校につきましては、全体としては全国、県との比較でさらに改善の傾向とあります。さらにとというのは、昨年度も改善傾向でしたが、今年度さらに改善しているものです。全国の平均正答率との比較では、国語A、国語B、数学Bで1%から3%上回りまして、数学Bでは1%下回った結果となっております。県との比較におきましては、国語A、国語B、数学A、数学B、全て1%から2%上回っております。県との比較では全ての教科で好ましい状況ですけれども、全国との比較では数学A、数学Bに改善が望まれる状況です。次の表が中学校での県比・全国比の経年比較です。平成27年度から県比・全国比がどのように推移しているかということですが、左側が県との比較です。平成27年度は国語Aから数学Bまで全てマイナスでしたが、平成28年度はゼロからプラスに転じまして、今年度は全ての項目でプラス1ポイントまたはプラス2ポイントという結果になっております。右側が全国比ですが、同様に平成27年度は全ての項目でマイナス2ポイントからマイナス6ポイントと下回っていたものが、昨年度、国語ではプラスとなりまして、数学についてもマイナスの幅が狭くなりました。そして今年度ですが、国語がプラス1ポイントからプラス3ポイント、数学について、今回もマイナスの結果ですが、平成28年度からの経年比較においては改善の傾向と言えるのではないかと考えております。

次に、児童生徒質問紙調査の結果です。教科調査と同時期に児童生徒質問紙調査も行いましたので概要についてお話しいたします。花巻市の児童生徒が共通に全国・県を上回る項目といたしましては、基本的な生活習慣、人としての有様、国語に係る学習等が上回っております。次に、花巻市の児童生徒が共通に全国・県を下回る項目といたしましては、家庭学習習慣、算数・数学に係る学習についての項目が下回っております。教科調査の傾向と同じ結果が表れております。また、本年度から中学校部活動の状況が質問紙に加わりました。運動部の参加状況は、花巻市は全国や県を上回っている結果になりました。花巻市の中学生の83.2%が運動部に参加しておりますが、県が78.2%、全国が66.7%であり、花巻市の中学生が運動部への参加率が高いことがわかりました。逆に、文化部への参加が花巻市は少ない結果となっております。部活動の時間ですが、2時間以上部活動をしているかという点で花巻は県よりも上回っておりますが、全国よりも低いということ

が分かっております。

児童生徒質問紙調査の具体について、何項目か取り上げてグラフ化したものを掲載しております。一番上が、学校の授業時間以外に普段（月～金）1日どれくらいの時間勉強しますかということで、これは学習塾や家庭教師も含まれます。この結果、1時間以上家庭学習をしている割合ですが、中学校が小学校を下回っている結果となっております。さらに、中学校の家庭学習時間が短い。これは継続している課題です。また、真ん中の、国語の勉強は好きですかは、全国や県に比べて肯定的な回答が多い。逆に、算数・数学は好きですかという質問に関しては、国や県と比べて肯定的な回答が少ないということです。

クロス集計の結果ですが、教科調査と質問紙との関連について掲載しています。学校の授業時間以外に普段（月～金）1日どれくらいの時間勉強しますかという項目と教科調査の点数の相関ですが、棒グラフをご覧ください。国語よりも算数・数学が家庭学習時間の影響を受けていることが分かっております。算数・数学の学力と家庭学習時間の確保と関連が高いことから、今回、課題が見えてまいりました。また、国語の勉強は好きですか、算数・数学の勉強は好きですかと教科調査結果の相関を見たものです。やはり、国語、算数・数学が好きだと回答した児童生徒が教科調査の結果も良いとなっております。自分の中でいかに興味関心を持たせることが大事であることを表しています。

この結果を受けて、どのように取り組んでいったら良いかということ、学校、家庭、地域それぞれについて載せているところです。学校に関しては、1点目としては、授業だけでなく学習環境や生活環境の安定が学力向上の土台にあることから組織的に対応すること。2点目は、各学校において今回の学力調査のような問題を把握して、結果を指導改善に生かすと、そして、3点目としては、学ぶ目的意識を持たせたり、家庭学習の内容や仕方を身に付けさせることとあります。家庭では、家庭学習習慣について、学校と協力しながら取り組んでいただきたいということです。その前段として基本的な生活習慣の良好な傾向について各家庭へ勧奨していきます。最後に、地域ですけれども、中学校区単位の教振の組織を活用して、家庭や学校と協力して取り組みをお願いしたいと記載しております。教育委員会としてアクションプランに取り組むとともに、今後の学習状況調査の結果等の分析に基づいたこれからの施策を展開していくこととしております。

なお、この内容については、10月上旬を目途にホームページにアップロードしたいと考えておりますので、各家庭、地域の方々にもご覧いただきたいと思っています。以上、全国学力・学習定着度状況調査の報告を終わります。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。それでは、只今の報告について質問等ございましたらお願いします。ございませんでしょうか。

それでは、私から。研究所の取り組みの中で、花巻地区で家庭学習時間の確保について話題になっていますか。

○沼田弘二小中学校課長 研究所は各部会に分かれておりますので、各教科の部会においてどのように取り組ませることが効果的か話し合われていると思います。研究所に加えて、只今、指定校で小中連携を取り組んでおりますので、その中で、小中一貫した家庭学習を

取り組んでいると思います。

○照井善耕委員長 全体的な時間も問題だと思うんです。要領よくやっている子もいるかもしれないですけども、小学生より中学生の時間が少ないなんて。

授業と家庭学習の中身をどういうふうにつなげていくか。花巻市の子ども達は部活動を一生懸命やっているから疲れて帰るだろうけれども、こういう家庭学習の中身であれば、できるんじゃないかみたいなものを、先生と生徒で一緒になって課題をクリアしていければ。

○沼田弘二小中学校課長 各学校でアクションプランを作っていただいているのですが、柱の1つが組織的な取り組み、2つ目が授業の改善、3つ目が家庭学習の充実、4つ目が学校独自の取り組みになっているのですが、その中にも家庭学習の充実という柱をたてて、各学校で工夫しながら、授業といかにリンクさせるかとか、そういったことを取り組んでいる状況です。

○照井善耕委員長 主体的なものにもっていくには、子ども達自身に家庭学習が全国に比べても少ないんだという課題の共有だと思うんですね。先生方も一生懸命頑張るから、みんなで課題をクリアするという共同戦線を張らないと、一方的に言うだけでは何も変わらないと思う。

○佐藤勝教育長 部活のせいにもされることもあるのですが、ただ、このデータを見ると花巻は昔から、寝るのは遅いし、とにかくテレビを見るんですよね。その意識からだと思います。

○照井善耕委員長 肝心の中身とか意欲とか、みんなで勉強できるようになろうとか、1時間で最大の効果を出そうとか、先生方も生徒と相談しながら動かしながらやらないとただ引っ張るだけではできないと思うんですね。そこを上手くもっていけば部活も変わってくるんじゃないかと思うんですね。

○佐藤勝教育長 部活も長時間やって、成果に結びつかないのは一番かわいそうだし。どうしても勝った負けたに走ってしまうけど、本当は自分たちで考えてやるのが部活ですよ。

○照井善耕委員長 学力調査結果についてはよろしいでしょうか。それでは、最後の報告をお願いいたします。

○沼田弘二小中学校課長 花巻市中学校新人大会の結果について報告いたします。資料No.4をご覧ください。9月16日、17日に、第50回花巻市中学校新人大会が各会場で行われました。結果については紙面にてお知らせしております。特徴といたしましては、合

同チームの参加が2種目ありまして、バスケットボール女子で西南・花巻北、ソフトボール女子で東和・湯本が合同チームで参加いたしました。どちらも入賞を果たしております。余談になりますが、バスケットの西南の女子はかつて県で何連覇もしたチームでありまして、先日、PTAの方にお聞きしたら最初は合同チームに抵抗感があったということなのですが、いざ、一緒に練習をしてみるとお互いに良い影響があったということで、結果もこのようになって喜んでいるという話を聞きました。練習するうえで苦勞もあったと聞きましたが、成功例なのではないかと思ったところです。天候についても台風18号の接近とか危ぶまれたところはあったのですが、中体連の組織的な対応で進行を早めることによって免れたところです。それから、2日目ですが不審者情報がありまして早朝、総合体育館前に不審者が現れたと通報もありましたが中体連と関係機関で連携して巡回を行い、大過なく無事に大会が終了したということも併せて報告したいと思います。

○照井善耕委員長 合同チームも県大会に行っているのですか。

○沼田弘二小中学校課長 はい。

○照井善耕委員長 ユニフォームというのはどうなるのですか。

○佐藤勝教育長 自分たちの学校のユニフォームでやる場合もあります。

○沼田弘二小中学校課長 バスケットボールではどちらかのを借りていると思いますが、ソフトボールはそれぞれのユニフォームです。

○佐藤勝教育長 ソフトボールのように攻める方と守る方がはっきりしているものはいいでしょうけれども。中体連の規定であまり縛りがかけられないものですが、そういう問題もこれから出てくると思います。

○照井善耕委員長 ありがとうございました。よろしいでしょうか。他に何か報告はありますか。報告について終わります。それでは、本日の議事日程はすべて終了します。ありがとうございました。